

園児が太鼓まつり体験

南ヶ丘・南ヶ丘第二保育園

八幡の夏の風物詩「太鼓まつり」を園児に体験してもらおうと、7月13日、南ヶ丘保育園と南ヶ丘第二保育園の5歳児29人による保育園合同太鼓まつりが行われました。

太鼓まつりは、石清水八幡宮の摂社・高良神社の宵祭で、担ぎ手が町内ごとに作った大きな屋形太鼓を担ぎ、太鼓を打ち鳴らして巡行します。この八幡の伝統を子どもたちに伝えるため、両園では毎年、屋形太鼓を手作りして実施しています。

この日に向けて、南ヶ丘保育園ではヒマワリやちょうちんなどまつりをテーマにした屋形太鼓を、南ヶ丘第二保育園では、虫をテーマに新聞紙や粘土で作ったテントウムシやハチなどで飾った屋形太鼓を完成させました。

お揃いの法被姿で各園を出発した園児は、太鼓の音に合わせて「ヨッサー、ヨッサー」と威勢のよい掛け声を地域に響かせていました。

水田碧和くん(6)は、「暑かったけど楽しかった」と笑顔で話していました。



手作りの屋形太鼓を担いで歩く南ヶ丘第二保育園の園児

親子で陶芸に挑戦

夏休み体験教室に19人

「夏休みの親子陶芸体験教室」(全3回)の初回が7月23日、文化センターで行われ、親子連れ19人が陶芸に挑戦しました。

同教室は、夏休みの時間を利用して親子で陶芸の楽しさを体験してもらおうと、市文化協会陶芸部会の主催により毎年開催されています。

まず参加者は話し合っ、猫形のお皿や家族がお揃いで使う湯飲みなど、作りたい器

を構想。同会員に教わりながら、平らにのばした粘土を折り曲げて成形する板作りや、ひも状の粘土を積み重ねて器にする紐作りなどの技法を実践して土台作りに挑戦。そして、抜き型やブラシを使って模様をつけて、オリジナルの器を作成していました。

今後は、作った器を乾燥、素焼きして絵付けを行い、4日間の本焼成を経て完成させる予定です。



成形のしかたを教わりながら作品を作る参加者

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

楽しみながら健康づくり

「気付き、体験、出会い」をテーマに、「健幸マルシェ」が7月5日、八幡人權交流センターで開催され、約90人が参加しました。

同イベントは、疾病予防や運動、食などの分野で健康づくりに取り組んでもらおうと、協定を締結する企業などと連携して市が主催。

会場では、熱中症対策の勉強コーナーのほか、手にセンサーを当てて野菜摂取の充足度を調べたり、体組

健幸マルシェ



電柱に貼られた謎解きに挑戦する参加者

謎解きまちウォークも

成計で筋肉量や基礎代謝量を測定したりするブースなどを出展。

参加者は、測定結果に基づいた健康管理・栄養バランスのアドバイスを受けるなど、健康づくりへの関心を深めていました。

また、市内を健康的に歩く「まちウォーク」も開催。地図を手に約2・5〜4kmのコースを歩きながら、チェックポイントで謎解きに挑戦していました。

大西正人さん(67)は、「謎解きに答えて頭も使いながらウォーキングを楽しむことができました」と話していました。

今月のこの人

京都府市町村・地域自治功労者表彰を受賞



にほんご教室
世界はテマン
(代表=足立 光生さん)(左)
おひさまテラスの会
(代表=大西 美和子さん)(右)

にほんご教室 世界はテマン 平成8年に発足。「テマン」はインドネシア語で「友達」の意味。現在のスタッフ数は約40人。

おひさまテラスの会 平成30年には「京都府子育て支援表彰(地域貢献部門)」を受賞。現在のスタッフ数は7人。

ボランティアスタッフとして参加してから10年になる足立代表は「日常生活の悩み事を聞くこともあり、彼らの居場所づくりにもつながっているのでは」と話します。

新型コロナウイルスの影響で徐々に開催したときも、変わらずに足繁く通う外国人の姿に「まじめで勉強熱心な人ばかり」と目を細めています。

「日本語支援に関心のある人は、気軽に来てほしい。これまでに培った経験や知識が活かせるはず」と、今後もテマン(友達)の輪を広げる活動を続けていきます。

おひさまテラスの会は、男山団地

A地区集会所で、生後2カ月から就学前までのお子さんとその保護者が利用できる地域子育て支援施設を平成26年に開設。

保育士資格などを持つスタッフが子育ての悩みに寄り添い、親子の成長を見守ってきました。保護者からは「もっと早く出会いたかった」という声をもらい「続けてきてよかった」と話す大西代表。

親子の信頼関係を大切にしてきたと話す大西代表は「これからも親子の気持ちに寄り添いたい。若いスタッフにも参加してほしい」と意気込んでいます。